

横濱貞臣君日光画園記  
讀しよふ証歌法を

松戸より日光山まで  
徳系雲山志無此色画  
寺の一光横濱貞臣  
記讀しよふ証歌法を

松戸より日光山を

寺の光を

寺の光を



杉戸より光山を

登くのぞきし。

けりくし急登山狭目ふらけり  
松葉はとさすれぬさしづき

言次がえとゆき

水をたてたせとよそあり

きうんかの

道はそあつたにうへ河を

や福川ふり

上野のたぐは河田をみ高き  
と備は何久殿のこ孫のはあ

こつれとをいとせ

舟よいなあ松のこ刺の飾ひふ  
松のこ松のこ松のこ松のこ

この道ふふ舟をともなふ

ゆき

おのれを松系

あ浜村とある

うけをまあ浜のひのぬれぬ  
ましくもあしき松系

追ふふ

旅人松系道れさく

追ふふ

旅人此より道れこく母  
部より市河の手より生管

野河むくの河より

任養生のいふふ

死路多野河のむく

村の名は野河のあり

河く田河

をさうけて  
なるにはなる

### 大谷川

浪河多されも思も地村を出て  
すめるや多を大谷川の氷

山あり

うたもあ

藍より

あ

みる

河を倒れ

をた

神の御機を

いほり目のむくりを

河を北河を

よき目く

合満ふ

石よりありあり

山とみちとの

合満ふく

石とやちとありき成とよし  
山とみほとのちりみりり

二重と  
層み  
満ちるみほ  
ここは

御山仁王門

日此初より若くお多屋敷を  
東ふとす宮めあるし

中禪寺(仁王門にて)

幻遊系譜

か海路に  
ほく松枝  
の申志向  
寺と

華嚴の滝を

みけむら

脚は崩れいたの湯法地は家

いりしき名ををた油し母

中禪寺にて遊をのま

中禪寺にて遊をのぞむ

池原き 彦平  
おそくけ 湯治く

あぢや むらさ  
屋敷 湖  
幸の

常陸道に事

笠と 山登  
船く 湯

船の音 鳴

阿婆の

あぢや

日一見衆をみて

ら落たまはれぬの

あぢや

そのまふ

あぢや

あぢや

空か—石をたづねて

あぢややく とうり

寂光のみちの音

知—らす石あり川原を

やのさび—きはれあぢや

回—前よ

常陸もれ—あぢや

うたまたまは水の

ふあぢり此

そのまふ

若あや

かきり

たて

うまかーし石をたけつるいかに坂を  
あきさや安く掘るうらう人

寂光のみちおのふ

知らする石あむ川隈をぬらむ  
そのまひーまは松此あまら

回し前よ

常盤おれそらあひさうけとあ  
若さ人さ部ーさぶらうをうりみ

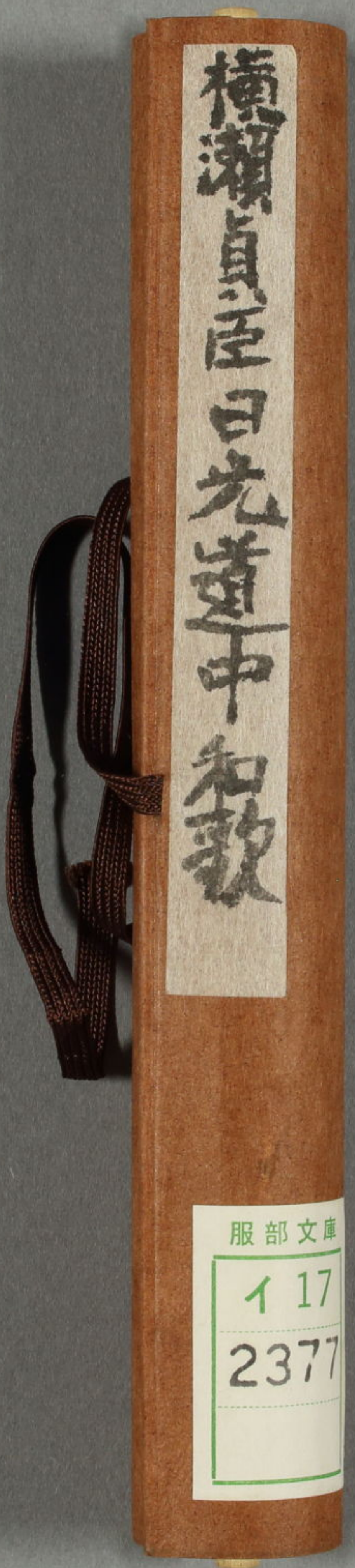
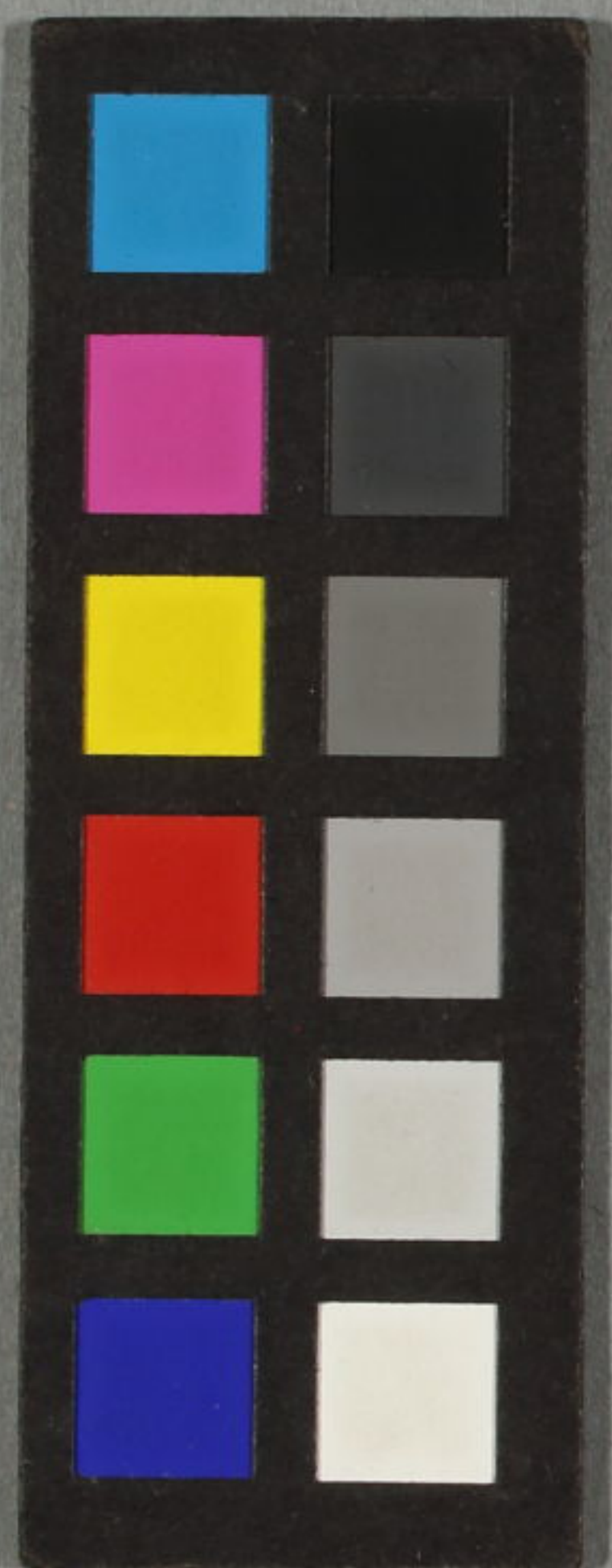
腕をよめる

初らるる銭若持さひま

光ふま

ふ代のふり何らあまら  
らむ

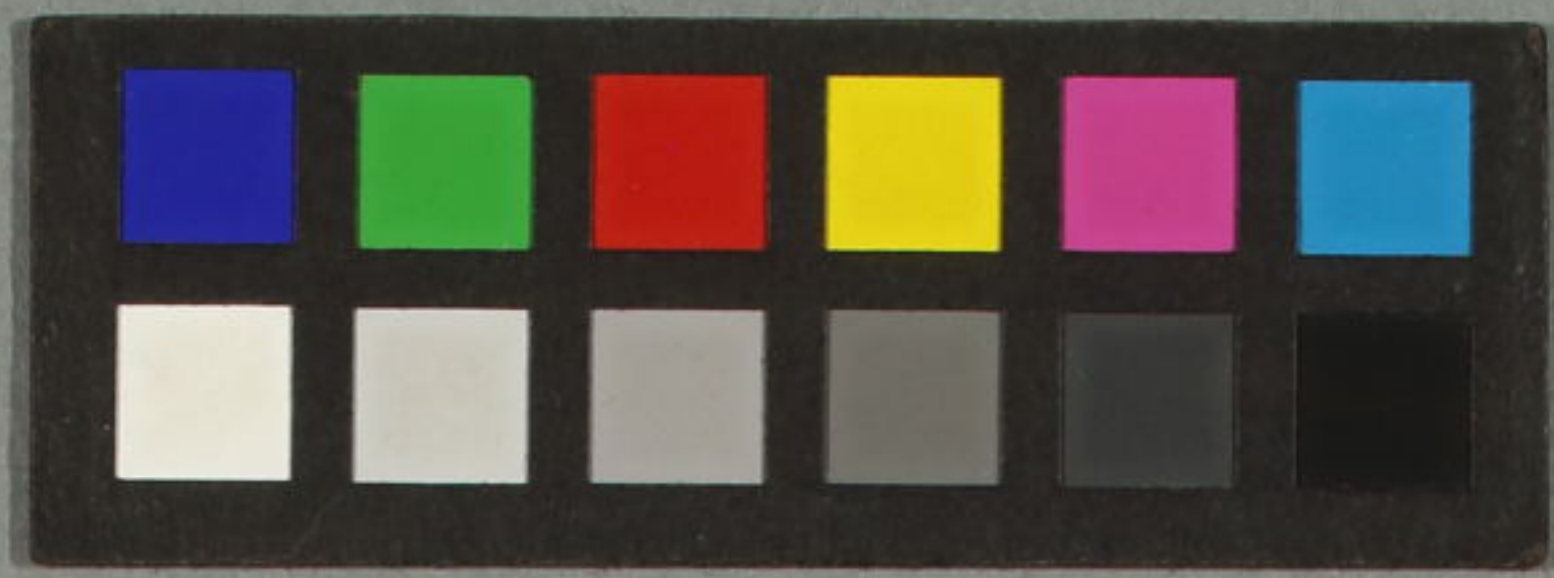
侍従貞臣



横瀬貞臣日光道中和歌

服部文庫  
イ 17  
2377





117  
2377

橫水負臣君日光画圖此卷  
讀之未識彼此字





横瀬貞臣日光道中和歌

服部文庫

イ 17

2377